

平成22年度ソウル特別市看護協会との交流報告書

I. 日程等

1. 期 間：平成22年10月12日（火）～16日（土） 4泊5日

2. 参加者：12名

団 長	嶋森 好子	(東京都看護協会 会長)
	松本 めぐみ	(国立成育医療センター)
	三木 美代子	(同愛記念病院)
	豊田 理恵	(同愛記念病院)
	中林 桃子	(N T T 東日本関東病院)
	藤井 里恵子	(小石川医師会訪問看護ステーション)
	石川 朝香	(東京警察病院)
	吉野 直美	(東京大学医学部附属病院)
	廣川 恵美	(東邦大学医療センター大森病院)
事務局	小川 田鶴子	(東京都看護協会 常務理事)
	廣岡 幹子	(東京都看護協会 事業部長)
	大口 敬子	(東京都ナースプラザ 研修係長)

3. 交流目的

日韓の共通課題（看護基礎教育・継続教育・看護師不足・高齢者問題等）について意見交換及び施設見学を通して相互に理解を深めるとともに韓国の文化に触れる

4. 主な研修先及び日程

月日	内 容
1日目 10/12（火）	ソウル特別市看護協会訪問 ソウル特別市看護協会の紹介
2日目 10/13（水）	延世(ヨンセイ)大学訪問 －韓国看護教育について－ 上級看護師について（感染管理領域） 病院見学（セブランズ病院）
3日目 10/14（木）	ソウル特別市看護協会にて討議 －看護師不足・高齢者福祉について－ センパ区役所、保健所訪問 －センパ区の保健所について－ 保健支所見学（住民の健康管理・教育、訪問看護など）
4日目 10/15（金）	文化交流 国立博物館 南山韓屋マウル 自由散策
5日目 10/16（土）	帰国

II. 見学内容と学んだこと

1. 韓国の看護師不足の要因とその対策について

韓国と日本の共通課題の1つとして、看護師不足問題があげられており、韓国における現状と取り組みについて説明を受けた。

1) 要因として考えられること

- (1) 診療費に係わる政策で、看護師等級制（日本の入院基本料・看護配置と同じような基準のことで、患者数：看護師数による等級と表現されていた）が2,007年から開始され、保健・医療・福祉施設などで看護師の需要が高まってきた。
- (2) 大病院の大型化が進み（2,000床以上の病院がソウル市内にも4か所ある）中小規模病院から大病院へ転職する現象が加速している。また、大型病院では、勤務条件や給与が良いし、誇りが持てると考えられている。そのため、大病院と、中小病院の格差がますます開く傾向にある。
- (3) 若い世代の離職者が多い。理由は、結婚・育児のためということで、20代～30代の62%が離職する。

2) 解決策として行われている事

- (1) 離職防止対策としては、勤務環境の改善や保育施設整備などが、積極的に行われるようになった。最近、大型病院では、保育施設等が整ってきており、離職率はさがってきた。
- (2) 中小病院においては、給与、夜勤手当・休日手当の見直しや多様な勤務形態の整備も検討されている。
- (3) 国からの支援員が4名協会内のナースセンターに派遣されており、中小病院を巡回訪問し、問題解決に向けた助言等支援を行っている。
- (4) 復職支援研修の実施。これは、看護協会で行行政からの委託を受けて実施されている。

「タンスの免許を活かそう!!」というフレーズで、復職支援研修受講者を募集している。

①復職支援研修は、1回につき40名対象に行っている。（国からの支援あり）

・研修期間は、個人の離職期間により調整している。

・2007年から研修受講者300名中135名が中小病院へ就業している。

②復職者に対しては、仕事と家庭の両立ができるよう相談・支援を行っている。

※ 韓国でも高齢化が進んでおり、診療報酬の改定や介護保険制度の開始など、医療・福祉現場でも日本と同じような変化がある。看護師不足問題もまた同様の状況が起きているようである。

看護師不足解決のための対策は、ワークライフバランスの推進や、ナースセンター事業の推進など、共通した取組がなされていると感じた。

2. 韓国の看護制度について

看護教育100年の歴史を持つ延世大学看護学部を訪問し、基礎教育の現状についての説明を受け、大学設備を見学させていただいた。

1) 看護基礎教育について

韓国の看護基礎教育は4年制大学と3年制専門看護大学院（短期大学）の2コースがある。

年間の卒業生のうち、4年制大学卒業が40パーセントで、3年制専門看護大学院（短期大学）卒業が60パーセントを占めている。

ソウル市内には、4年制大学10か所、3年制専門大学院（短期大学）4か所がある。

韓国の教科内容は、アメリカの看護教育を基本にしている。講義はハングル語であるが、教科書は英語の教科書を使用している。最近、ハングル語の教科書も出版されるようになったとコメントされていた。

2) 延世大学看護学部見学から

近年韓国では看護師希望者が増加しており、延世大学看護学部の入試関門も大変狭い。

入試合格点は95パーセントを超えるとのことである。

延世大学看護学部には、学部（看護基礎教育）4年制のほか、大学院（修士、博士課程）、看護政策研究所、性行動教育センター、産学協力センター（セブランス病院とともに臨床研究・セミナー等、協同している）、西太平洋地域看護協力センター（セブランス病院で実習）等が併設されている。

見学は、講義室、自習室、実習室を案内された。各室は、整然と整えられていた。

特に、実習室は、ICU設備の個室が何室か作られており、ベッドにはコンピュータ管理できるシミュレータが設置されていた。個々の実習室とコンピュータールームとの間はマジックミラーで仕切られており、教官は、シミュレーションの内容を変更しながら、学生の行動を観察できるようになっている。

また、実習状況をビデオ撮影できるシステムがあり、実習中も、実習後も教員と学生が同時に場面の確認や振り返りができるようになっていた。

徹底して患者状況に合わせた技術をマスターできるようなシステムが組み立てられていた。

この部屋は、予約制で、同系列の病院ナースや卒業生たちが実習できるようになっている。

看護実践能力を重視した教育体制がとられ、施設も整備されていると感じられた。

3. 免許について

(1) 国家試験は、4年制大学卒業生と3年制専門看護大学院（短期大学）卒業生が受験することができる。資格取得後は、免許に差はない。

(2) 免許は登録制で、毎年8時間の教育を受けることを義務付けられている。

4. セブランス病院見学から

セブランス病院では、カンファレンスルームにてオリエンテーションがあり、その後病院内を案内された。

1) セブランス病院概要 病床数 2,076床 病院職員 6,000人 20階建ての建物

- ・2007年 JCI 委員会認定（韓国で一番目の認定）、2010年 JCI 再認定されている。
- ・セブランス病院の歴史 アメリカ宣教師 シーズシスターが設立以来100年
- ・セブランス病院のモットーは、First and Best、顧客満足重視 *GREEN Care!!*
- ・看護の理念は：神の愛の実践

2) 顧客に対して

- ・すべての患者に同等の診療を行う。
- ・夜間など時間を問わず対応する。（人員配置も夜も昼も同じ）
- ・医療機関全体で対応する。
- ・高危険患者群に対処するメニューあり。

3) 看護部について

(1) 看護職員 約1,750名

(2) 院内教育： 新人看護師教育、管理能力向上のための教育、 在職のための教育

職務能力向上のための教育 プリセプター教育

補習教育（抗がん治療、X線、呼吸器、運動など）

専門教育（小児青少年看護、感染管理、ケモ・バイオ看護、心血管看護など）

国内外研修 など

(3) 職員評価：新人4週間 特殊9週間で行い、次につなげている。

(4) 看護局としてのその他活動 宣教活動、地域社会への奉仕、インドネシア・ハイチへの奉仕などが行われている。

4) 病棟・外来見学

- (1) 病棟は8階～20階にある。病床稼働率は95%。
- (2) 看護体制は 42床に対し、看護師15名 3:1看護(勤務体制 3交代 各勤務帯4名) 病室は1人、2人、5人部屋がある。
- (3) ナースコールは殆どならない。ナースがいる部屋は緑色のランプがついている。
(生活動作が自立できていない患者は、必ず付添がいるが、韓国は家族を大事にする習慣があるので、家族の希望もある。)
- (4) 外来1～4階
 - ・外来で、診療科等のコーディネートを看護師が行っている。
 - ・予約はインターネット、電話で24時間受け付ける。
 - ・外来カードで、電子受付を行いテレビ画面で呼び出しあり。
 - ・廊下等には、カードで位置確認ができるコンピュータも置かれ、行くべきところを確認できるシステムもある。
- (5) 電子カルテシステム
2005年から全てのホールで共有使用されている。
- (6) 物品搬送システムあり。
キリスト教の精神をベースに、全ての人に平等で心配りのいきとどくケアを目指し、病院全体で取り組まれていることを強く感じた。

5. ソウル特別市看護協会会館にて

1) 協会活動について

- (1) 会員サービスとして、教育プログラム23回/年実施。協会内実習室は、コンピュータ制御できるシミュレーション室があり会員が利用できる。
- (2) 地域活動 ①中学校へ心肺蘇生の講義活動、②両親学級の開催、③託児施設へ遊休看護婦を派遣(ソウル市からの委託)している。役割は、自閉児の早期発見など。
- (3) ナースセンター事業 職員は、協会職員のほか、女性省から5人(設計士)、労働省から2(相談員)が出向している。設計士・相談員は、中小病院などをまわり、状況を把握し、相談に応じている。
復職支援研修を2007年から行っており、求職者のうち70%が就職している。
- (4) SNA 在宅長期療養センターの経営を行っている。

2) 協会内の見学から

- ・協会内にも延世大学看護学部と同じような実習室が整えられており、会員の個別の実習や復職支援研修での実習に活用している。
- ・研修室も、大小の部屋が整えられており、訪問時は、小教室で復職支援研修が行われ、200人程度の大教室では、就業中の看護職の研修が行われていた。
- ・昼食時、協会で募集した看護ビデオコンテストの入選ビデオを視聴した。「自分たちの看護をPRしよう」という試みで募集をかけたそうだが、市内の各病院から応募があり、いろいろな部署のナースが工夫を凝らして大変楽しいビデオが作成されていた。
協会のPRや、看護の事をどのように社会に知らせていくかなど、工夫検討がなされていると感じた。
- ・また、行政との調整を行いながら、看護職の確保対策をすすめるとともに、看護の質の向上を目指していることは、同じ協会として通じるものであると思う。

6. Songpa 区保健所見学

ソンパ区では、保健衛生局長より区の保健行政の説明があり、その後保健所と保健支所を見学した。

1) 保健医療体制について

韓国の保健行政は 2,009 年に保健福祉府（国）発足、16 市に保健課がある。

16 市の中には、都市型保健所と農村型保健所がある。また、山間部などには保健支所や保健診療所がある。保健診療所は、診療看護師が開業をしている。

保健所機能は、昔の日本型に類似しているが、現在は韓国型機能を持っている。

①障害者、低所得者層には1次診療を無料で実施、②慢性、代謝異常（糖尿病・生活習慣病）に対し、健康増進教育、③訪問看護、④メンタルヘルス対応、⑤リハビリ対応、⑥伝染病予防、⑥妊産婦、乳児への無料検診・予防接種などのプログラム、⑦高齢者対策、⑧産業衛生など

2) センパ区保健所について

保健所の組織は、①衛生担当、②健康増進担当、③医学管理担当がある。

保健所内には診療所があり、妊産婦健診・産後の管理などをすべて無料でやっている。利用者は多い。

不妊症に対し、人工授精の助成や、12歳までの乳幼児に対する無料予防接種、未熟児支援なども行っている。メタボリック対策として、健康指導・栄養指導なども低所得者は無料、所得のある人も低費用で丁寧な対応がなされている。また、アスレチックルームや栄養相談室、精神科相談室、子育て相談室なども整備されていた。

その他、保健所の活動内容として

①訪問看護 地域住民の健康状態の把握、一人暮らし・老人世帯への訪問と健康管理など行うが、地域病院、医療チームとの連携を密に行っている。

②精神保健管理センター 精神的問題がある場合 PSW、PN s、PT、Dr とチームを組み活動

③認知症対策 ソンパ区では 65 歳以上の区民全員に、初期認知症検査を行う。

重症の場合は、国の療養所（150 床あり）での支援がある。

④伝染性疾患 国家で 100%治療する。

⑤住民サービス 1次診療 高血圧、糖尿病などの検査 X線検査 がんなど多様な検査を行う。低所得者等は無料、所得のある人は廉価で登録すれば3回健康診査が受けられ、指導も受けられる。

1990 年後半から、記録類は電子化されており、入試などで診断書が必要な場合は、インターネットで報告先へ連絡されるとのこと。

⑥飲食店・食品店などの衛生、理美容・浴場などの衛生（許可管理）。病院や薬局の許可。

⑦保健支所の運営 支所では、特に低所得者階層、心身障害者の診療、リハビリなどを実施している。

また、訪問看護師が対象人数に応じて配置されており、独居老人や低所得者のかたなどで、医療・介護が必要である人が置き去りにされているようなケースを発見し、その対応を、訪問看護師が担っている。対象者がいる場合は、必要に応じ救急車も使い支所へ連れてくる。支所では、医師が診断をし、治療・リハビリが行われる。また、より濃厚な治療が必要な場合は地域にある病院と連携する。

低所得者の歯科診療も実施。歯科医 20 名がボランティア登録している。医療奉仕団も支所では活躍している。その他、地域住民の健康教育・情報提供も行う。

以上、説明・ご案内いただいた保健所長さんは、日本のシステムを学びましたと謙虚に説明されたが、よりよい保健システム構築に向けて、研究を重ねられ、自信を持って実践に取り組まれていると感じた。

特に、少子高齢化対策や、低所得者への対応など、福祉対策がきめ細かく行われている事を感じた。

7. まとめ

今回の研修では、ソウル特別市看護協会、延世大学看護学部、セブランス病院、ソンパ区保健所、国立博物館等を案内していただいた。

看護協会や大学・病院・保健所の訪問・見学では、それぞれの施設の方々が、その実践に誇りをもって取り組まれていることが窺われ、丁寧な説明をいただいた。

韓国での看護師の地位は、近年めざましく向上しているということで、入試も大変難しくなっているようである。それと同時に、教育内容も教育設備も充実されているということを実感した。実際に、看護師の活動は病院のみならず、診療看護師や訪問看護師など、地域に密着した活動の要になっており、その実力が期待されていた。

保健所では、日本のシステムを学んだと説明されていたが、きめ細かい研究をなされ、よりよい方向を目指し、行政施策を立てられた方々の真摯な姿勢を感じた。

また、IT化が進んでおり、様々な形で、効率的な活用がなされていた。

看護師人材不足は両国とも同様であり、課題や取り組む方向は共通するものであった。

訪問してみなければわからない他国の現状をこのような形で学習出来、大変有意義な時間だった。



平成22年度ソウル特別市看護協会との交流

日 程：平成22年10月12日(火)～16日(土)

参 加 者：嶋森会長を団長として総員12名

訪問施設：ソウル市看護協会、延世大学、セブランス病院、センパ区保健所、国立博物館

① 韓国で一番歴史の古い看護学部のある延世大学。教科書は英語と韓国語の両方が使用されており、看護師は必然的に英語ができる。シミュレーションセンターでは実際に呼吸・心電図・血圧などが測定できる人型模型があり、マジックミラー越しの操作室で教員が設定を変えたり、この音はどのような状態か聞いたりして、実践に近い状態で実習が行われていた。

パソコンルームでは呼吸音や心音だけでなく、様々な学習内容がプログラムされていて、個人がいつでも自由に学習できるようになっていた。看護実践能力養成に力がいれられていることが窺われた。



延世大学実習室（ソウル市看護協会も同様）

② セブランス病院は、2,076床の大病院である。院内はカルテ以外でも電子化が進んでいる。受診予約は24時間受け付けている。病院内のあちこちに『トウミ』という案内機があり、カードをかざすと、患者や家族、病院を訪れた人が自分は今どこにいるのか、どこに行けばよいか案内してくれる。エレベーターの中には椅子を設置、病棟の廊下には距離がわかる印があり、術後患者の自主的なリハビリもしやすいようになっていた。『First and Best』をモットーに、患者中心の病院運営を心がけている事を病院見学から実感した。

東京大学医学部付属病院 吉野さんのレポートより



セブランス病院副院長・看護部長と